

遠野市学校施設長寿命化計画

令和3年度～令和12年度



令和3年2月

遠野市総務企画部管財担当

目 次

第1章	学校施設の長寿命化計画の背景・目的等.....	1
1	背景.....	1
2	目的.....	1
3	計画期間.....	1
4	対象施設.....	1
第2章	学校施設の目指すべき姿.....	2
1	安全・安心な施設環境の確保.....	2
2	教育環境の質的向上.....	2
第3章	学校施設の実態.....	3
1	学校施設の運営状況・活用状況等の実態.....	3
2	学校施設の老朽化状況の実態.....	10
第4章	学校施設整備の基本的な方針等.....	16
1	学校施設の規模・配置計画等の方針.....	16
2	改修等の基本的な方針.....	18
第5章	基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等.....	21
1	改修等の整備水準.....	21
2	維持管理の項目・手法等.....	21
第6章	長寿命化の実施計画.....	23
1	改修等の優先順位付けと実施計画.....	23
2	長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果.....	24
第7章	長寿命化計画の継続的運用方針.....	25
1	情報基盤の整備と活用.....	25
2	推進体制等の整備.....	25
3	フォローアップ.....	25

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1 背景

本市の学校施設は小学校 11 校、中学校 3 校を合わせた 14 の学校があり、学校施設としては 72 棟の建物（小学校 51 棟、中学校 21 棟）を維持管理しています。72 棟の建物のうち 50%の 36 棟の建物は建築後 30 年以上が経過しており、全体的に老朽化・機能低下が進行しています。

今後、老朽化した学校施設の修繕や建替えに多額の費用が必要となることから、これらの適正な維持管理が課題となっています。

国においては、平成 25 年 11 月に「インフラ長寿命化基本計画」を策定するとともに、本市においては、より良い行政サービスを持続するために平成 28 年 3 月に「遠野市公共施設等総合管理計画」を策定しました。これらの計画を基に、学校施設の長寿命化計画をたて、学校施設の機能を確保することが求められています。

2 目的

「遠野市学校施設長寿命化計画（以下、「本計画」という。）」は「遠野市公共施設等総合管理計画」に基づく、学校施設の個別計画として位置付けます。

また、学校施設を総合的観点でとらえ教育環境の質的改善も考慮しながら、今後予想される施設の改修について計画をたてることで、これまでの事後保全的な改修から予防保全的な改修に転換し、施設の長寿命化を図り、それに要するトータルコストの縮減と予算の平準化を図ることを目的とします。

3 計画期間

計画期間は令和 3 年度から令和 12 年度までの 10 年間とします。

ただし、5 年を目途に計画の見直しを行うこととします。

4 対象施設

本計画における対象施設は下記の校舎及び体育館とします。

- ・小学校 11校
- ・中学校 3校

これらの施設が保有する建築物のうち、小規模建築物（概ね 200 m²以下）を除き長寿命化計画を策定します。

第2章 学校施設の目指すべき姿

1 安全・安心な施設環境の確保

学校施設は、児童生徒の学習と生活の場であるとともに、地域コミュニティや避難所としての役割を果たす施設であるため、安全かつ安心な施設環境を確保することが必要です。

児童生徒が安心して有意義な学校生活が過ごせるよう、防災・防犯や安全性に配慮した施設整備を図るとともに障がいの有無に関わらず、誰もが安心して学校施設を利用できるよう多目的トイレの整備など、ユニバーサルデザインやバリアフリーの施設となるよう整備を進める必要があります。

2 教育環境の質的向上

近年の教育内容・方法の多様化や児童生徒の生活様式の変化等も踏まえ、トイレの洋式化、エアコンの整備など、時代に即した多機能かつ高機能な教育環境の確保、また高断熱材を採用するほか、LED照明、人感センサー照明など省エネルギー化により環境に配慮した施設整備を積極的に進める必要があります。

さらに、情報化の進展と普及に伴い、ICT環境の一体的な整備を効率的に進めるとともに児童生徒一人ひとりの教育ニーズに応じて、少人数学級や特別支援教育に対応した施設を整備する必要があります。

また、地域に開かれた学校とするため、保護者や地域住民が訪れやすい環境とし、特に体育館は学校開放事業でも地域住民の利用率が高いことから、放課後や夜間の安全な利用を考慮した施設整備を行う必要があります。

第3章 学校施設の実態

1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

(1) 対象施設一覧

本市は、小学校 11 校と中学校 3 校の学校施設を有しており、延床面積は小学校全体で 38,830 m²、中学校全体は 15,203 m²となります。

■対象施設一覧（令和2年5月1日現在）

	所在地	区分	構造	延床面積 (m ²)	建築年	児童生徒数 (人)	
						通常学級	特別支援
遠野小学校	遠野市東館町11番28号	校舎	RC	5,340	S44	239	10
		体育館	W	1,092	H25		
遠野北小学校	遠野市松崎町白岩字薬研淵43番地	校舎	RC	3,686	S47	304	13
		体育館	W	1,273	H22		
綾織小学校	遠野市綾織町下綾織13地割13番地5	校舎	W	2,306	S62	63	2
		体育館	S	860	S62		
小友小学校	遠野市小友町16地割133番地	校舎	RC	1,854	S58	30	2
		体育館	S	715	S58		
附馬牛小学校	遠野市附馬牛町下附馬牛11地割31番地1	校舎	W	1,557	H2	36	2
		体育館	RC	861	H2		
土淵小学校	遠野市土淵町土淵6地割1番地	校舎	RC	2,376	S53	73	4
		体育館	S	694	S53		
青笹小学校	遠野市青笹町青笹11地割1番地	校舎	W	2,936	H13	130	1
		体育館	RC	1,074	H12		
上郷小学校	遠野市上郷町佐比内46地割56番地1	校舎	W	3,107	H19	57	3
		体育館	W	900	H19		
宮守小学校	遠野市宮守町下宮守26地割6番地	校舎	RC	2,486	S58	86	3
		体育館	RC	711	S59		
達曽部小学校	遠野市宮守町達曽部15地割10番地	校舎	W	2,300	H11	40	2
		体育館	S	600	S55		
鱒沢小学校	遠野市宮守町下鱒沢17地割5番地	校舎	RC	1,394	S46	24	1
		体育館	S	708	S60		
小学校計				38,830		1,082	43
遠野中学校	遠野市松崎町白岩11地割30番地	校舎	RC	5,658	H25	348	7
		体育館	RC	1,944	H3		
遠野東中学校	遠野市青笹町青笹10地割16番地	校舎	W	2,518	S63	134	10
		体育館	W	954	S63		
遠野西中学校	遠野市宮守町下宮守39地割65番地	校舎	RC	3,154	S53	107	5
		体育館	S	975	S53		
中学校計				15,203		589	22

※1 建築年は最も古い棟の建築年を表示

※2 延床面積は公立学校施設台帳より参照

※3 校舎及び体育館を対象（200 m²以下の物置等は除く）

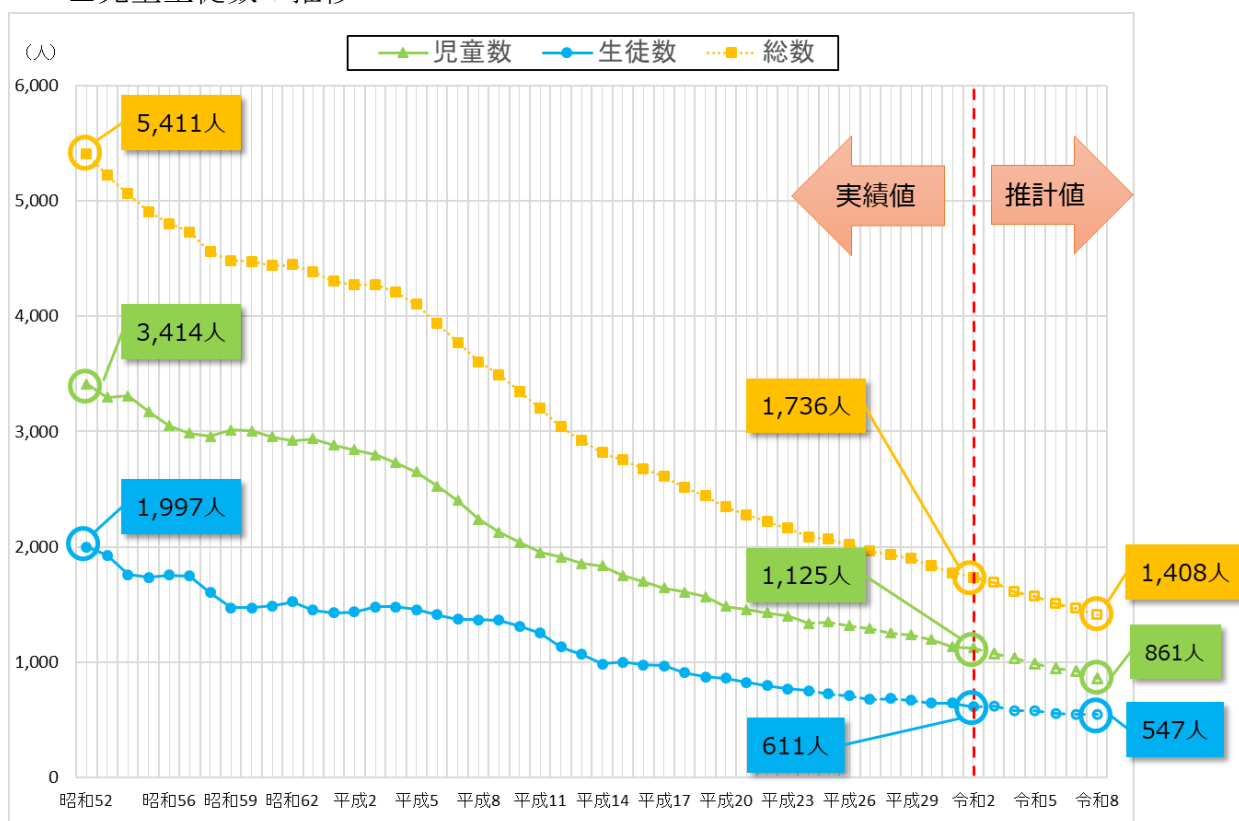
(2) 児童生徒数の推移

学校基本調査と住民基本台帳に基づく昭和52年度から令和8年度までの50年間の児童生徒数の推移を下記に示します。

小学校の児童数は、令和2年5月1日現在1,125人です。昭和52年度の児童数3,414人と現在の児童数を比較すると、△2,289人となり約67%の減少です。令和8年度時点の推計では児童数は861人となり、現在の児童数と比較すると△264人で約23%の減少となる見込みです。

中学校の生徒数は、令和2年5月1日現在611人です。昭和52年度の生徒数1,997人と現在の生徒数を比較すると、△1,386人となり約69%の減少です。令和8年度時点の推計では生徒数は547人となり、現在の生徒数と比較すると△64人で約10%の減少となる見込みです。

■ 児童生徒数の推移

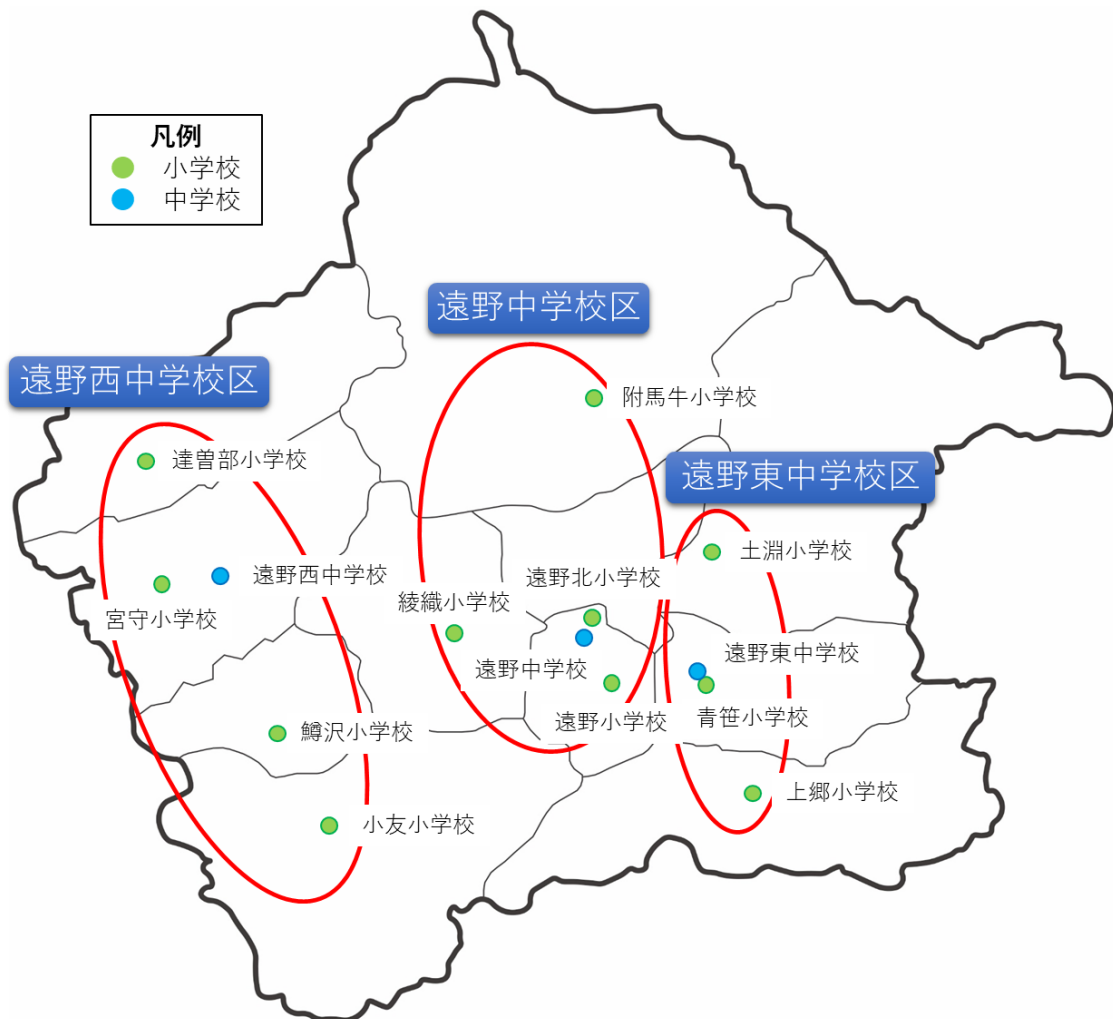


- ※1 昭和52年度～令和2年度：学校基本調査（毎年度5月1日時点）に基づく人数
- ※2 令和3年度～令和8年度：住民基本台帳（令和2年6月24日時点）による推計人数

(3) 学校施設の配置状況

本市では、平成 25 年度の学校再編により遠野中学校と綾織中学校と附馬牛中学校を遠野中学校に統合し、土淵中学校と青笹中学校と上郷中学校を遠野東中学校に統合し、小友中学校と宮守中学校を遠野西中学校に統合しました。

学校再編により遠野中学校区（遠野小学校、遠野北小学校、綾織小学校、附馬牛小学校）では「1 中学校 = 4 小学校」の構成、遠野東中学校区（土淵小学校、青笹小学校、上郷小学校）では「1 中学校 = 3 小学校」の構成、遠野西中学校区では（小友小学校、宮守小学校、達曾部小学校、鱒沢小学校）では「1 中学校 = 4 小学校」の構成となっております。



(4) 施設関連経費の推移

平成 27 年度から令和元年度までの 5 年間の施設関連経費は約 1.6 億円から約 4.4 億円で推移し、5 年間の平均は約 3.0 億円となっております。

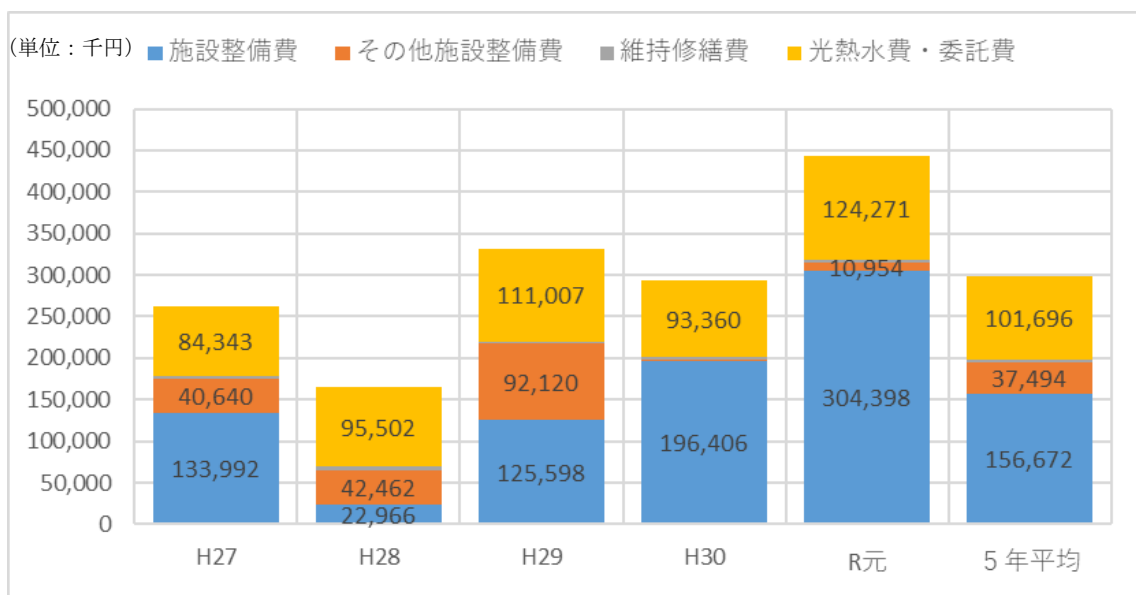
(単位：千円)

	H27	H28	H29	H30	R 元	5 年合計	5 年平均
施設整備費	133,992	22,966	125,598	196,406	304,398	783,362	156,672
その他施設整備費	40,640	42,462	92,120	1,292	10,954	187,470	37,494
維持修繕費	3,137	4,379	2,358	3,167	3,214	16,256	3,251
光熱水費・委託費	84,343	95,502	111,007	93,360	124,271	508,484	101,696
合計	262,112	165,310	331,085	294,226	442,838	1,495,574	299,114

※1 千円未満切捨。合計額は必ずしも一致しません。

※2 施設整備費は校舎、体育館、給食室等の整備にかかる費用のこと。

※3 その他施設整備費はプール、グラウンド、共用設備等の整備にかかる費用のこと。



- ・西中プール改築
- ・遠中体育館
大規模改造 (H27)
- ・東中体育館
大規模改造
- ・宮小プール改築
- ・土小校舎大規模改造
- ・空調設備設置工事 (R 元)

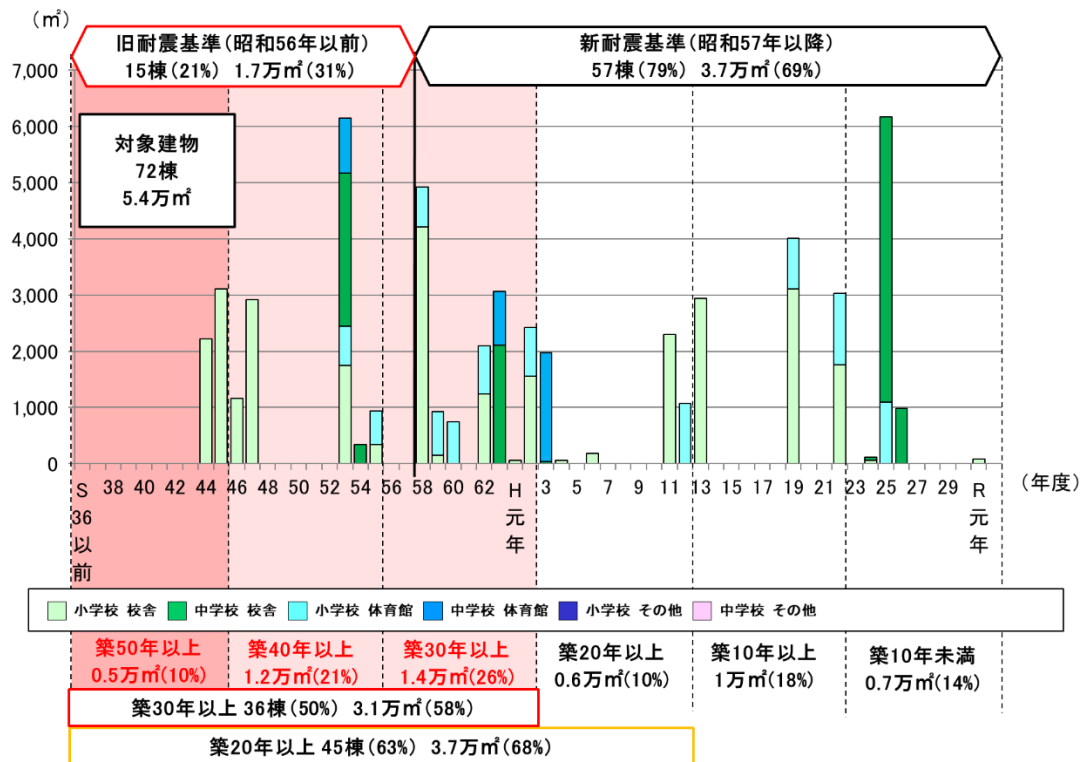
(5) 学校施設の保有量

計画対象の建物は合計 72 棟、延床面積は 5.4 万㎡であり、そのうち築 20 年以上の建物は 45 棟 3.7 万㎡（延床面積全体の 68%）、築 30 年以上の建物は 36 棟 3.1 万㎡（延床面積全体の 58%）となっております。

今後、改築や大規模な改修が必要となる建物が増加し、多額の経費がかかり本市の財政に大きな影響を与えることになります。

そのため、学校施設は改築だけでなく、長寿命化改修による整備を検討していく必要があります。

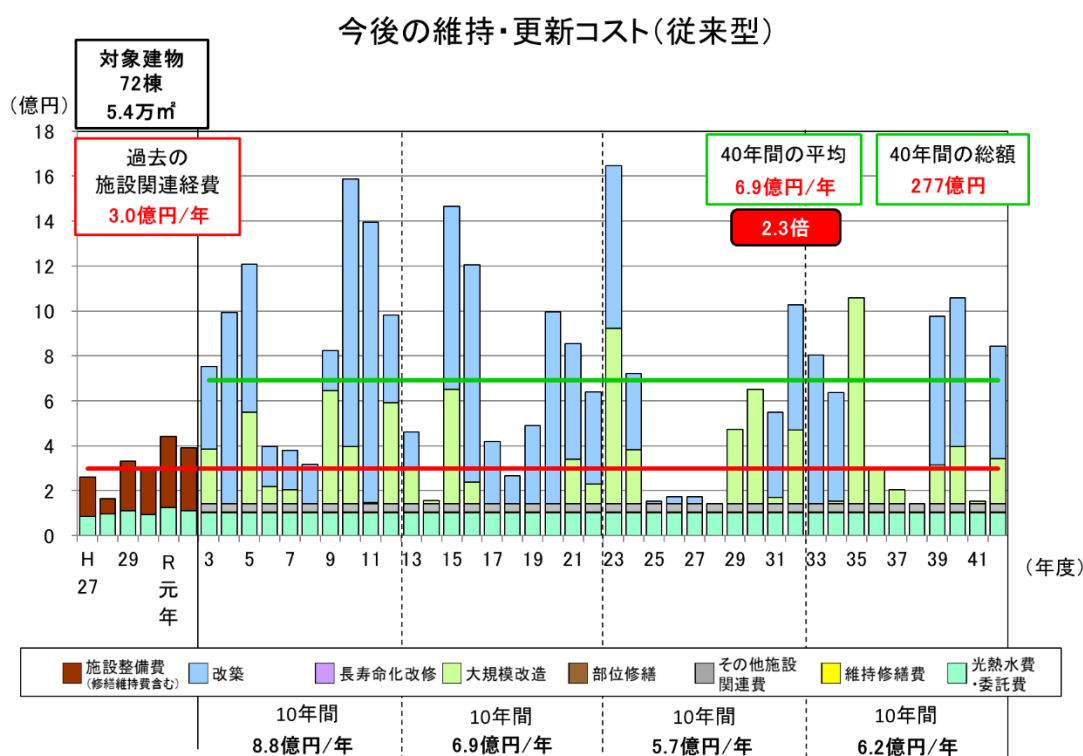
築年別整備状況



(6) 今後の維持・更新コスト（従来型（長寿命化改修を実施しない場合））

建築後 50 年で建替える従来の修繕・改修を今後も継続した場合、今後 40 年間の維持・更新コストは、総額で 277 億円（6.9 億円／年）かかると試算されます。これは直近 5 年間の施設関連経費 3.0 億円／年の 2.3 倍になります。特に今後 10 年間に建替え等が集中し、この期間の維持・更新コストは 8.8 億円／年（約 2.9 倍）と試算されます。

その後も改築に係る経費が大きく、従来の改築（建替え）中心の整備を継続していくには財政的にも負担が大きいため、対応策を検討する必要があります。



コスト試算条件（従来型）

- 試算期間：令和2年度（基準年度）の翌年度から40年間
- 改築：更新周期50年、工事期間2年（工事費を均等配分）
更新周期より古い建物については改築を10年以内に実施するものとし、工事費の10分の1を10年間計上
- 大規模改造：実施年数20年周期、工事期間1年
- 単価設定：改築単価330,000円/㎡
（「公共施設等更新費用試算ソフト（総務省）」における学校施設更新単価より設定）
大規模改造単価は改築単価の25%（校舎）、22%（体育館）

- 試算ソフト：「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）」付属のエクセルソフトを用いて試算
既存建物の構造体以外を全面改修（内外装や建具等を全て撤去して構造体のみを残した状態＝スケルトン）する場合として試算
- その他：その他施設関連費、維持修繕費、光熱水費・委託費は平成27年度から令和元年度までの5年間の平均値を試算期間の各年度に計上

2 学校施設の老朽化状況の実態

(1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の老朽化状況等の評価

学校施設の老朽化状況は、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）」の調査票を用いて屋根・屋上、外壁については目視による点検を行い、内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数に基づき、A、B、C、Dの4段階で評価しました。

評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

	評価	基準
良好 劣化	A	概ね良好
	B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
	C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
	D	早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

経過年数による評価【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

	評価	基準
良好 劣化	A	20年未満
	B	20～40年
	C	40年以上
	D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

健全度の算定

健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標である。①部位の評価点と②部位のコスト配分を下表のように定め、③健全度を100点満点で算定する。なお、②部位のコスト配分は、文部科学省の「長寿命化改良事業」の校舎の改修比率算定表を参考に、同算定表における「長寿命化」の7%分を、屋根・屋上、外壁に按分して設定している。

①部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

③健全度

$$\text{総和(部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分)} \div 60$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。
※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

(右図「劣化状況調査票」記入例における健全度計算例)

	評価		評価点		配分			
1	屋根・屋上	C	→ 40	×	5.1	=	204	
2	外壁	D	→ 10	×	17.2	=	172	
3	内部仕上げ	B	→ 75	×	22.4	=	1,680	
4	電気設備	A	→ 100	×	8.0	=	800	
5	機械設備	C	→ 40	×	7.3	=	292	
計 3,148								
÷ 60								
健全度 52								

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60

(出典：文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」)

■ 建物情報及び老朽化状況評価の一覧

○ 小学校

: 築50年以上
 : 築30年以上
 基準 2020
 A : 概ね良好
 C : 広範囲に劣化
 B : 部分的に劣化
 D : 早急に対応する必要がある

建物基本情報											構造躯体の健全性					老朽化状況評価								
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100点 満点)	
					学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/㎡)							試算上 の区分
1	219	遠野小学校	校舎1	1-1	小学校	校舎	RC	3	2,225	1969	S44	51	旧	済	済	H18	19.3	長寿命	A	B	B	C	C	68
2	219	遠野小学校	校舎2	1-2	小学校	校舎	RC	3	2,734	1970	S45	50	旧	済	済	H18	22.7	長寿命	B	B	B	C	C	66
3	219	遠野小学校	校舎3	1-3	小学校	校舎	RC	3	381	1970	S45	50	旧	済	済	H18	22.7	長寿命	A	C	B	C	C	58
4	219	遠野小学校	屋内運動場、渡り廊下	2、3	小学校	体育館	W・S	1	1,092	2013	H25	7	新	-	-	-	-	改築	A	A	A	A	A	100
5	238	遠野北小学校	教室棟1	1-1	小学校	校舎	RC	2	893	1972	S47	48	旧	済	-	H18	30.7	長寿命	A	B	A	C	C	78
6	238	遠野北小学校	管理教室棟	1-2	小学校	校舎	RC	2	2,028	1972	S47	48	旧	済	-	H18	30.7	長寿命	A	B	A	C	C	78
7	238	遠野北小学校	教室棟2	1-3	小学校	校舎	RC	2	342	1980	S55	40	旧	済	-	H18	28.6	長寿命	A	A	A	B	B	94
8	238	遠野北小学校	会議室	1-4	小学校	校舎	S	1	56	1989	H元	31	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	A	B	B	87
9	238	遠野北小学校	屋内運動場、渡り廊下	3-1、3-2	小学校	体育館	W・RC	1	1,273	2010	H22	10	新	-	-	-	-	改築	B	A	A	A	A	98
10	238	遠野北小学校	多目的ホール、渡り廊下	5-1、5-2、5-3	小学校	校舎	W・S	1	302	2010	H22	10	新	-	-	-	-	改築	A	A	A	A	A	100
11	238	遠野北小学校	給食荷受室、渡り廊下	6-1、6-2	小学校	校舎	S	1	65	2012	H24	8	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	A	A	A	93
12	221	綾織小学校	校舎、渡り廊下	5-1、5-2	小学校	校舎	W	2	1,460	2010	H22	10	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
13	221	綾織小学校	特別教室棟、渡り廊下	7-1、7-2	小学校	校舎	W	1	846	1987	S62	33	新	-	-	-	-	改築	A	A	A	B	B	94
14	221	綾織小学校	屋内運動場、玄関	8-1、8-2	小学校	体育館	S・W	1	860	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77
15	880	小友小学校	管理教室棟	1	小学校	校舎	RC	2	1,790	1983	S58	37	新	-	-	-	-	長寿命	D	B	B	B	B	70
16	880	小友小学校	屋内運動場	2	小学校	体育館	S	2	715	1983	S58	37	新	-	-	-	-	長寿命	C	A	B	B	B	79
17	880	小友小学校	校舎	4	小学校	校舎	RC	1	64	1992	H4	28	新	-	-	-	-	長寿命	D	B	B	B	B	70
18	239	附馬牛小学校	校舎1	12	小学校	校舎	W	2	625	1990	H2	30	新	-	-	-	-	改築	A	C	A	B	B	76
19	239	附馬牛小学校	校舎2	13	小学校	校舎	W	2	726	1990	H2	30	新	-	-	-	-	改築	A	C	A	B	B	76
20	239	附馬牛小学校	校舎3	14	小学校	校舎	RC	2	206	1990	H2	30	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	B	B	94
21	239	附馬牛小学校	屋内運動場	15	小学校	体育館	RC	1	861	1990	H2	30	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77
22	240	土淵小学校	校舎1	1-1	小学校	校舎	RC	2	1,750	1978	S53	42	旧	済	-	H19	38.4	長寿命	A	A	A	C	A	92
23	240	土淵小学校	校舎2	1-2	小学校	校舎	RC	1	71	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	C	A	92
24	240	土淵小学校	校舎3	1-3	小学校	校舎	RC	1	60	2019	R元	1	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100
25	240	土淵小学校	屋内運動場、渡り廊下	2、12	小学校	体育館	S	2	694	1978	S53	42	旧	済	済	H19	28.8	長寿命	A	A	A	C	A	92
26	240	土淵小学校	校舎4、渡り廊下	6、7	小学校	校舎	RC・S	1	152	1984	S59	36	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	B	A	97
27	240	土淵小学校	校舎5	8	小学校	校舎	RC	1	80	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	B	A	97
28	240	土淵小学校	校舎6、渡り廊下	9、10	小学校	校舎	RC・S	1	240	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	B	A	97
29	240	土淵小学校	給食荷受室	11	小学校	校舎	S	1	23	2019	R元	1	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100
30	236	青笹小学校	特別教室棟	1-1	小学校	校舎	W	2	664	2001	H13	19	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
31	236	青笹小学校	普通教室棟	1-2	小学校	校舎	W	2	854	2001	H13	19	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
32	236	青笹小学校	管理棟	1-3	小学校	校舎	W	1	361	2001	H13	19	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
33	236	青笹小学校	多目的ホール棟、渡り廊下	1-4、3	小学校	校舎	W	2	698	2001	H13	19	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
34	236	青笹小学校	音楽室棟	1-5	小学校	校舎	W	1	86	2001	H13	19	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
35	236	青笹小学校	コンピュータ室棟	1-6	小学校	校舎	W	2	273	2001	H13	19	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
36	236	青笹小学校	屋内運動場、地域連携施設	2-1、2-2	小学校	体育館	RC	1	1,074	2000	H12	20	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	A	A	A	93
37	237	上郷小学校	管理教室棟1	1	小学校	校舎	W	2	852	2007	H19	13	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
38	237	上郷小学校	管理教室棟2	2	小学校	校舎	W	2	961	2007	H19	13	新	-	-	-	-	改築	B	B	A	A	A	91
39	237	上郷小学校	管理教室棟3	3	小学校	校舎	W	2	1,294	2007	H19	13	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
40	237	上郷小学校	屋内運動場	4	小学校	体育館	W	1	900	2007	H19	13	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
41	620	宮守小学校	校舎	1	小学校	校舎	RC	2	2,422	1983	S58	37	新	-	-	-	-	長寿命	D	C	B	B	B	59
42	620	宮守小学校	屋内運動場1、渡り廊下	3、2、4	小学校	体育館	RC・S	1	775	1984	S59	36	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75
43	621	鱒沢小学校	校舎1	1	小学校	校舎	RC	3	1,168	1971	S46	49	旧	済	済	H19	26.8	長寿命	C	C	A	C	C	62
44	621	鱒沢小学校	給食荷受室	4	小学校	校舎	S	1	9	1985	S60	35	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	62
45	621	鱒沢小学校	屋内運動場、渡り廊下	5、6	小学校	体育館	S	1	739	1985	S60	35	新	-	-	-	-	長寿命	C	D	A	B	B	63
46	621	鱒沢小学校	校舎2	8	小学校	校舎	RC	2	186	1994	H6	26	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77
47	618	達曽部小学校	屋内運動場	1	小学校	体育館	S	1	600	1980	S55	40	旧	済	-	H18	32	長寿命	D	C	B	B	B	59
48	618	達曽部小学校	校舎1	2	小学校	校舎	W	2	717	1999	H11	21	新	-	-	-	-	改築	C	B	B	B	B	72
49	618	達曽部小学校	校舎2、渡り廊下	3、6	小学校	校舎	RC	2	774	1999	H11	21	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84
50	618	達曽部小学校	校舎3	4	小学校	校舎	W	2	697	1999	H11	21	新	-	-	-	-	改築	A	A	B	B	B	84
51	618	達曽部小学校	校舎4	5	小学校	校舎	RC	1	112	1999	H11	21	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84

○中学校

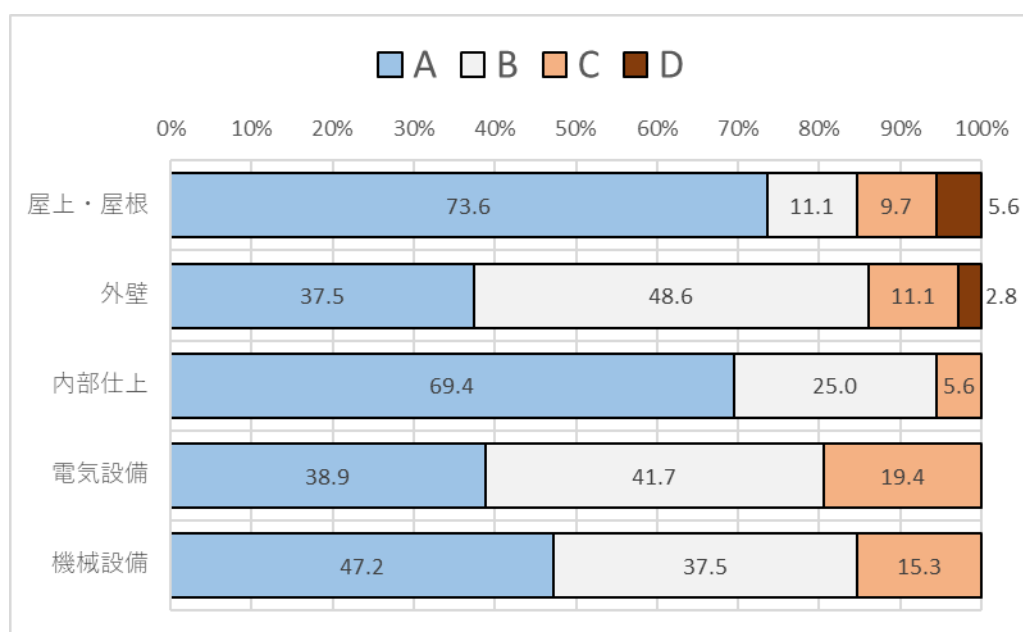
■:築50年以上 □:築30年以上 基準 2020
 [A]:概ね良好 [C]:広範囲に劣化
 [B]:部分的に劣化 [D]:早急に対応する必要がある

建物基本情報											構造躯体の健全性				老朽化状況評価									
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100点 満点)	
					学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/㎡)							試算上 の区分
52	3623	遠野中学校	屋内運動場、地球・ 学校連携施設	22-1、22-2	中学校	体育館	RC	2	1,944	1991	H3	29	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	A	B	B	92
53	3623	遠野中学校	校舎1	24-1	中学校	校舎	RC	2	646	2013	H25	7	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100
54	3623	遠野中学校	校舎2	24-2	中学校	校舎	W	2	993	2013	H25	7	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
55	3623	遠野中学校	校舎3	24-3	中学校	校舎	RC	3	986	2013	H25	7	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100
56	3623	遠野中学校	校舎4	24-4	中学校	校舎	W	2	911	2013	H25	7	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
57	3623	遠野中学校	校舎5	24-5	中学校	校舎	RC	2	842	2013	H25	7	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	A	A	A	93
58	3623	遠野中学校	校舎6	24-6	中学校	校舎	W	2	298	2013	H25	7	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
59	3623	遠野中学校	多目的ホール、渡り 廊下	27-1、28-1	中学校	校舎	RC	2	982	2014	H26	6	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	A	A	A	93
60	3631	遠野東中学校	普通教室棟1	1-1	中学校	校舎	W	1	821	1988	S63	32	新	-	-	-	-	改築	C	C	A	B	B	71
61	3631	遠野東中学校	特別教室棟	1-2	中学校	校舎	W	2	850	1988	S63	32	新	-	-	-	-	改築	C	B	A	B	B	81
62	3631	遠野東中学校	管理棟	1-3	中学校	校舎	RC	2	442	1988	S63	32	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	A	B	B	87
63	3631	遠野東中学校	屋内運動場、クラブ ハウス	2-1、2-2	中学校	体育館	W・RC	1	954	1988	S63	32	新	-	-	-	-	改築	A	A	A	B	B	94
64	3631	遠野東中学校	普通教室棟2、読み 込みホール	4-1、4-2	中学校	校舎	W・RC	2	278	2013	H25	7	新	-	-	-	-	改築	A	B	A	A	A	93
65	3631	遠野東中学校	図書室棟、渡り廊下	5-1、5-2	中学校	校舎	W・RC	1	127	2013	H25	7	新	-	-	-	-	改築	A	A	A	A	A	100
66	3632	遠野西中学校	校舎1	1	中学校	校舎	RC	2	1,071	1978	S53	42	旧	済	-	H15	21	長寿命	B	D	C	C	C	34
67	3632	遠野西中学校	校舎2	2	中学校	校舎	RC	2	424	1978	S53	42	旧	済	済	H15	32.2	長寿命	A	A	C	C	C	62
68	3632	遠野西中学校	校舎3	3	中学校	校舎	RC	2	1,234	1978	S53	42	旧	済	-	H15	26.5	長寿命	B	B	C	C	C	53
69	3632	遠野西中学校	屋内運動場、渡り廊 下	4、7	中学校	体育館	S	1	975	1978	S53	42	旧	済	済	H15	30.9	長寿命	B	B	C	C	C	53
70	3632	遠野西中学校	準備室	8	中学校	校舎	S	1	33	1991	H3	29	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84
71	3632	遠野西中学校	給食荷受室	10	中学校	校舎	RC	1	50	2012	H24	8	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100
72	3632	遠野西中学校	多目的ホール、渡り 廊下	11、12	中学校	校舎	S	1	342	1979	S54	41	旧	済	-	H25	-	長寿命	A	A	A	C	C	85

■老朽化状況の概要

下記に老朽化状況を評価区分ごとにまとめたものを示します。

区分		A	B	C	D
屋上・屋根	件数	53	8	7	4
	割合 (%)	73.6	11.1	9.7	5.6
外壁	件数	27	35	8	2
	割合 (%)	37.5	48.6	11.1	2.8
内部仕上	件数	50	18	4	0
	割合 (%)	69.4	25.0	5.6	0.0
電気設備	件数	28	30	14	0
	割合 (%)	38.9	41.7	19.4	0.0
機械設備	件数	34	27	11	0
	割合 (%)	47.2	37.5	15.3	0.0



○屋上・屋根

A評価が大きな割合を占めています。しかし小友小学校校舎や達曽部小学校体育館は屋根の広範囲に錆が見られるためD評価としました。また、視聴覚室の広範囲に雨漏りが見られる宮守小学校校舎もD評価としました。部分的に雨漏りのする遠野東中学校校舎や軒天吸音材の劣化が見られる鱒沢小学校校舎などはC評価としました。

○外壁

部分的な塗装の剥がれやひび割れが見られる建物が多くB評価が約半分を占めております。外壁に腐食が見られる附馬牛小学校校舎や外壁材の浮きや塗装の剥がれ等のある達曽部小学校体育館などはC評価としました。遠野西中学校校舎はシーリング材の破れや階段踊り場付近の外壁から雨漏りが見られるためD評価としました。また鱒沢小学校は体育館へつながる渡り廊下の基礎部分に亀裂が見られるためD評価としました。

○内部仕上

大規模改造工事により床・壁・天井等の改修を行っていることから工事实施年から経過年数により評価を行い、A評価が多くの割合を占めています。現時点でB評価のものについては築30年以上のものが多くを占めているため、今後建築年数の経過によってC評価となります。

○電気設備、機械設備

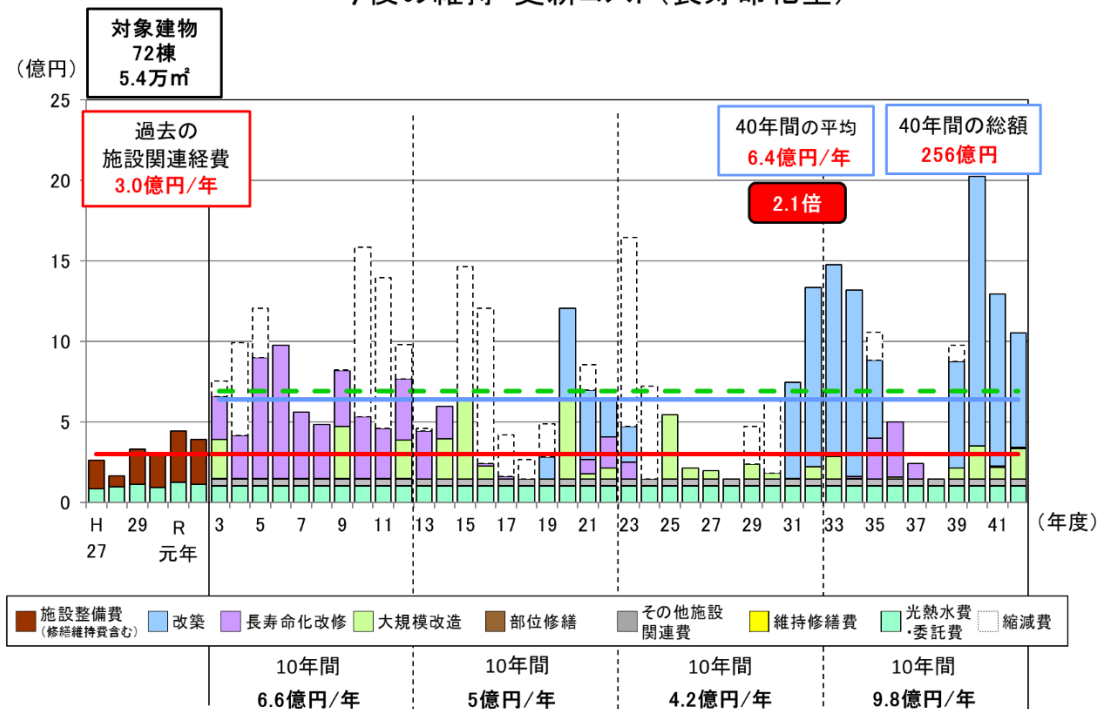
大規模改造工事等により設備の改修を行っているものの、照明のLED化や暖房設備更新等の表面的な改修に留まり、建物内部の電気配線、給排水管等のライフラインまでの改修を行えていないことから、建築年数に応じた老朽化状況として評価しました。

(2) 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

今後、学校施設の建替えによる費用集中を避け、将来の費用を縮減していくため、長寿命化改修等により建物の耐用年数を80年に長寿命化した場合、今後40年間の維持・更新コストは総額256億円（6.4億円/年）となります。従来の建替え中心の場合の277億円（6.9億円/年）より総額21億円の減額となり、維持・更新コストを約8%削減できると試算されます。

直近5年間の施設関連経費3.0億円/年と比較すると2.1倍の維持・更新コストが必要となるため、施設の長寿命化改修のみならず、将来の児童生徒数に応じた学校施設の保有資産量の適正化について検討しつつ、現有施設を有効に活用できる整備を行っていく必要があります。また建物の状態を調査し、再利用可能なものは再利用し、改修箇所を限定することでさらなるコストダウンを図っていく必要があります。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



コスト試算条件（長寿命化型）

- 試算期間：令和2年度（基準年度）の翌年度から40年間
- 改 築：更新周期＜木造＞50年
 ＜鉄筋コンクリート造・鉄骨造＞80年
 工事期間2年（工事費を均等配分）
 更新周期より古い建物の改築を10年以内を実施するものとし、工事費の10分の1を10年間計上
- 長寿命化改修：実施年数40年周期、工事期間2年（工事費を均等配分）、改修周期より古い建物の改修を10年以内を実施するものとし、工事費の10分の1を10年間計上
 基準年度から過去5年以内に大規模改造を行った建物については基準年度から10年間の改修費用を除く
- 大規模改造：実施年数20年周期、工事期間1年
 （ただし改築・長寿命化改修の前後10年間に重なる場合は実施しない）
- 部位修繕：D評価 今後5年以内に部位修繕を実施
 C評価 今後10年以内に部位修繕を実施
 （ただし、改築・長寿命化改修・大規模改造を今後10年以内を実施する場合を除く）
 A評価 今後10年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差引く
- 単価設定：改築単価330,000円/m²
 （「公共施設等更新費用試算ソフト（総務省）」における学校施設更新単価より設定）
 長寿命化改修単価は改築単価の60%
 大規模改造単価は改築単価の25%（校舎）、22%（体育館）
- 試算ソフト：「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）」付属のエクセルソフトを用いて試算
 既存建物の構造体以外を全面改修（内外装や建具等を全て撤去して構造体のみを残した状態＝スケルトン）する場合として試算
- その他：その他施設関連費、維持修繕費、光熱水費・委託費は平成27年度から令和元年度までの5年間の平均値を試算期間の各年度に計上

第4章 学校施設整備の基本的な方針等

1 学校施設の規模・配置計画等の方針

(1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針

■遠野市公共施設等総合管理計画の主な考え方、方針

4 施設の維持管理に係る実施方針

(1) 点検・診断等実施方針

各施設に係る法定点検、定期点検及び日常点検等を適切に実施していくとともに、蓄積したデータをもとに予防保全措置を講ずることにより大規模修繕及び更新を回避できるよう、施設の適切な管理に努めます。

(2) 維持・修繕・更新等の実施方針

施設の修繕及び改修の検討にあたっては、安全性の確保、利用需要及び劣化の程度等、多方面からの検討により優先度をつけて実施するとともに、ユニバーサルデザイン化に係る検討を進め、安心・安全な施設の維持、継続的な行政サービスの提供及び財政負担の平準化に努めます。

また、将来的な機能転換の可能性及び維持管理コスト削減を視野に入れた施設づくりに取組むとともに、必要に応じ受益者負担の見直しを図ります。

(3) 安全確保の実施方針

点検・診断等により高度の危険性が認められた施設については、速やかに保全措置または、共用廃止措置を講じます。

また、共用廃止され、かつ今後とも利用見込みのない施設については、危険度及び周辺への影響を考慮した優先順位付けを行い、計画的に除却処分を進めます。

(4) 耐震化の実施方針

(耐震補強が必要な学校施設については、全て補強済のため省略)

(5) 長寿命化の実施方針

それぞれの施設の耐用年数及び利用状況等をふまえ、存続すべきと判断した施設については、より安心・安全な環境での行政サービスの提供を維持するため、公共施設ロングライフ事業による速やかな対応及び計画的な修繕または予防修繕措置を講ずることにより施設の長寿命化を図ります。

(6) 統合・廃止の推進方針

少子高齢化に伴う利用需要の変化等に伴い、利用状況の芳しくない施設及び機能が重複している施設については、議会、市民及び有識者の意

見を取り入れつつ、他施設との複合化及び用途廃止等の検討を進めます。

また、用途廃止後の施設については、賃貸または売却などによる財源確保に努めるほか、安全上の問題がある施設については計画的かつ速やかに除却を進めます。

(「遠野市公共施設等総合管理計画」抜粋)



■遠野市学校施設長寿命化計画の基本方針

①点検・診断等実施方針

引き続き施設の法定点検・定期点検を実施し、予防保全に努めます。また、点検結果を蓄積し一元管理することで、各施設の老朽化状況を把握します。

②維持・修繕・更新等の実施方針

老朽化や機能の低下が生じる前に予防的な修繕を行うことで、維持・修繕にかかる費用の削減に努めます。

③安全確保の実施方針

児童生徒が安全に施設を利用できるようにするため、点検・診断等により高度の危険性が認められる箇所の保全措置を速やかに行い、施設の安全管理に努めます。

④長寿命化の実施方針

80年以上の利用を想定して継続的な点検活動や維持管理データの蓄積、老朽化状況に応じた改修を行い、安全面、機能面、環境面に配慮した施設の長寿命化を図ります。

⑤統合・廃止の推進方針

児童生徒数に応じた学校施設の保有資産量の適正化について検討しつつ、現有施設を有効に活用できる整備を行います。

(2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

本市では、少子化社会の進展により、市内小中学校の児童生徒数の減少が激しく、中学校においては平成25年4月に中学校8校を3校に再編成しました。小学校においては日常生活圏の中で、地域とのかかわりをもって地域を大切にする心を育む教育を進めることを重視することから、11校を維持しております。

さらなる少子化の進展は小学校の維持にも影響があるため注視していく必要があります。今後、児童生徒数の減少、それに伴う学校経営上の課題等を見据えながら、学校施設の整備を進めていく必要があります。

(2) 学校教育の充実

②教育環境の充実

現状と課題

少子化社会の進展により、市内小中学校の児童生徒数の減少が激しく、中学校においては、生徒指導上、学校経営上多様な課題が発生してきたことから、平成25年4月に中学校8校を3校に再編成し、教育環境の充実を図りました。小学校においては、日常生活圏の中で、地域とのかかわりをもって地域を大切にすることを育む教育を進めることを重視することから、11校を維持することとしましたが、さらなる少子化の進展は、小学校の維持にも大きな影響があるため、注視していかなければなりません。

また、学校施設の老朽化等による建て替え等も計画的に進めておりますが、今後、児童生徒数の減少、それに伴う学校経営上の課題等を見据えながら、整備を進める必要があります。

展開方向

○学校施設の耐震化率は100%になっておりますが、老朽化対策が必要なことから引続き施設の維持補修を図るとともに、年次計画により、改修、長寿命化を進め、児童生徒が安全かつ健康で心豊かな学校生活を送ることができるよう、教育環境の充実に努めます。

(「第2期遠野市教育振興基本計画」抜粋)

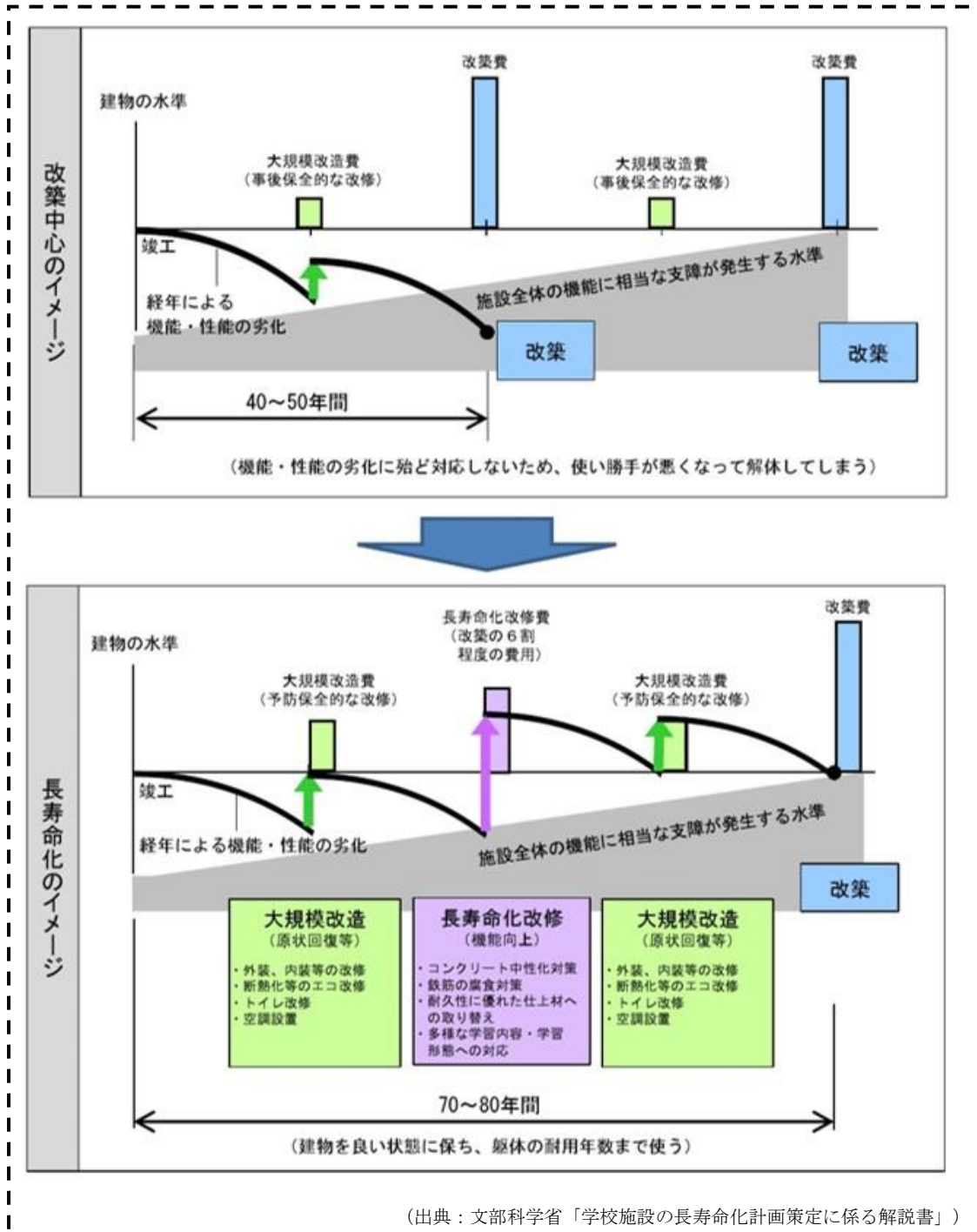
2 改修等の基本的な方針

(1) 長寿命化の方針

従来は、深刻な劣化や破損などの不具合が発生してから改修等を行うという事後保全的な対応を行ってきましたが、その方法では建物の見える部分しか改修できず、建築後40年で建物全体の機能が必要水準を下回り、短い期間で改築せざるを得ない状況となっております。

そのため、長寿命化計画では、建築から20年程度経過後に機能回復を目的とした予防保全的な改修を行い、中間期(概ね40年)には長寿命化改修を行います。

その後も建物の部位ごとの改修周期を勘案し、約 20 年の期間で予防保全的な改修を計画的に行います。このように定期的・計画的な改修を行うことで、学校施設の機能・性能の低下を長期間放置することなく、社会的に必要とされる水準まで引き上げ学校施設全体の長寿命化を図ります。



(2) 目標耐用年数、改修周期の設定

目標耐用年数は、「建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）」を参考に下記のとおり設定します。改修周期については長寿命化の方針に基づき、鉄筋コンクリート造・鉄骨造については建築から20年経過時に原状回復のため大規模改造、40年経過時には機能向上のための長寿命化改修、60年経過時にさらに原状回復のための大規模改造を行うよう設定します。木造についても20年経過時に原状回復のため大規模改造を行い、40年経過時には建物の老朽化状況により必要に応じて機能向上のための長寿命化改修を行うよう設定します。

区分	目標耐用年数	長寿命化改修の周期	大規模改造の周期
鉄筋コンクリート造 ・鉄骨造	80年	40年	20年
木造	50年	40年（※）	20年

※ 建物の老朽化状況により必要に応じて改修を実施

■ 建築物全体の望ましい目標耐用年数の級

用途	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造		鉄骨造 重量鉄骨			ブロック造 れんが造	木造
	高品質 の場合	普通の品質 の場合	高品質 の場合	普通の品質 の場合	軽量鉄骨		
学校・官庁	Y100以上	Y60以上	Y100以上	Y60以上	Y40以上	Y60以上	Y60以上
住宅・事務所 ・病院	Y100以上	Y60以上	Y100以上	Y60以上	Y40以上	Y60以上	Y40以上
店舗・旅館 ・ホテル	Y100以上	Y60以上	Y100以上	Y60以上	Y40以上	Y60以上	Y40以上
工場	Y40以上	Y25以上	Y40以上	Y25以上	Y25以上	Y25以上	Y25以上

■ 目標耐用年数の級の区分の例

級 (Y)	目標耐用年数		
	代表値	範囲	下限値
Y150	150年	120年～200年	120年
Y100	100年	80年～120年	80年
Y60	60年	50～80年	50年
Y40	40年	30年～50年	30年
Y25	25年	20年～30年	20年

(出典：日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」)

第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

1 改修等の整備水準

文部科学省は「学校施設の長寿命化計画策定の手引き」において、「改修（特に長寿命化改修）の実施に当たっては、単に数十年前の状態に戻すのではなく、構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高めるとともに、省エネルギー化や多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など、現代の社会的な要請に応じるための改修を行うことが重要である。」としています。

長寿命化改修において配慮すべき性能として、安全・安心に学べる教育環境とし、少子高齢化や小・中学校の地域における役割（避難所、地域コミュニティの場等）を踏まえ、学校生活の場として必要な環境の確保・維持や、教育のICT化、省エネルギー化、バリアフリー化、防災・防犯等の社会的要求に対応した機能付加など、ニーズや費用等を勘案しながら整備を進めていきます。

①建物の耐久性を高めるもの

- ・ 構造躯体の長寿命化を実施するもの（コンクリートの中性化対策や鉄筋の腐食対策等）
- ・ 耐久性に優れた材料等を使用するもの（劣化に強い塗装・防水材等の使用）
- ・ 維持管理や設備更新の容易性を確保するもの
- ・ 水道、電気、ガス管等のライフラインの更新



中性化対策のための抑制剤やアルカリ性付与剤の塗布



耐久性に優れた屋根材の一例（カラーガルバリウム鋼板）



埋設されていた配管を改修の際に露出化

②現代の社会的要請に応じるもの

- ・ 少人数指導など多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
- ・ 断熱、二重サッシ、日射遮蔽等の省エネルギー対策



様々な学習内容・学習形態に対応できる多目的スペースを整備



外断熱、自然光利用、自然換気などのエコ改修

（出典：文部科学省「学校施設の長寿命化改修の手引」）

2 維持管理の項目・手法等

長寿命化を図るためには、定期的に改修工事を行うだけでなく、日常的・定期的に施設の点検や清掃、情報管理を行う必要があります。日常的、定期的に

維持管理を行うことで建物の老朽化状況を詳細に把握でき、より早く異常に気付くことができるため、施設に応じた維持、改修内容や時期を計画に反映することができます。

各施設の維持管理を効率的・効果的に実施するため、本計画策定の際に作成した調査票を活用し、今後も継続的に点検・評価を実施していきます。

＜記入例＞

調査日、記入者を記入する。

通し番号	XXXX-XX-X	
学校名	A学校	学校番号 1301
建物名	校舎	調査日 平成28年9月20日
棟番号	1	記入者 ○○
構造種別	鉄筋コンクリート造	延床面積 2,562 m ²
		築年数 昭和44年度(1969年度)
		階数 地上3階 地下0階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)		特記事項	評価
		年度	工事内容	箇所数			
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水 <input type="checkbox"/> アスファルト露出防水 <input checked="" type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水 <input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板) <input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類) <input type="checkbox"/> その他の屋根 ()	H7	防水改修	<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある <input checked="" type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある <input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある <input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある <input checked="" type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある <input type="checkbox"/> 樋やルーフィングを目視点検できない <input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある	2	EXP-J金物に脱落がある	C
		H3 H10	外壁改修 耐震補強	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある <input type="checkbox"/> 外壁から漏水がある <input checked="" type="checkbox"/> 塗装の剥がれ <input checked="" type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている <input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある <input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある <input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある <input type="checkbox"/> 外部手すり等の錆・腐朽 <input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある	5 多数	北側の劣化	
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input checked="" type="checkbox"/> 老朽改修 <input type="checkbox"/> エコ改修 <input type="checkbox"/> トイレ改修 <input type="checkbox"/> 法令適合 <input type="checkbox"/> 校内LAN <input type="checkbox"/> 空調設置 <input type="checkbox"/> 障害児等対策 <input type="checkbox"/> 防犯対策 <input type="checkbox"/> 構造体の耐震対策 <input type="checkbox"/> 非構造部材の耐震対策 <input type="checkbox"/> その他、内部改修工事	H5	大規模改造				B p.32~33 参照
4 電気設備	<input checked="" type="checkbox"/> 分電盤改修 <input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事 <input checked="" type="checkbox"/> 昇降設備保守点検 <input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事	H22 H18					A
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修 <input type="checkbox"/> 排水配管改修 <input checked="" type="checkbox"/> 消防設備の点検 <input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事	H27				指摘への対応済み	C

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項があれば、該当部位と指摘内容を記載)
外壁の劣化が進んでいます。ひび割れ剥がれが多数見られます。舗装面に段差があり危険な状況です。

健全度

52 / 100点

p.26
参照

履歴がある項目にチェックし、実施年度及び特記事項を記入する。

12条点検等で4段階の劣化状況評価に影響を及ぼすような指摘事項がある場合は特記事項欄に記入する。

(出典：文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」)

第6章 長寿命化の実施計画

1 改修等の優先順位付けと実施計画

大規模な改修工事の実施にあたっての優先度は、学校施設の老朽化状況調査と建物の竣工または直近の大規模な改修工事实施からの経過年数によって定めることを原則とします。また、計画期間内での事業量を平準化することで計画的な実施を目指します。

今後、実施計画に基づき大規模な改修工事を進めていきますが、庁内の関係各課との財政的・技術的検討により、長寿命化への対応に適さない施設と判断された施設については、大規模な改修工事以外の手法を検討していきます。

■今後 10 年間の長寿命化の実施計画

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度～ 令和12年度
小学校	校舎	小友小学校 長寿命化改修設計・工事				鱒沢小学校 長寿命化改修設計・工事	宮守小学校 長寿命化改修設計・工事
	体育館	達曽部小学校 長寿命化改修設計・工事		小友小学校 長寿命化改修設計・工事		鱒沢小学校 長寿命化改修設計・工事	宮守小学校 長寿命化改修設計・工事
中学校	校舎					遠野西中学校 長寿命化改修設計・工事	
	体育館				遠野西中学校 長寿命化改修設計・工事		

2 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

従来型の改修から長寿命型の改修へ転換することで、コスト試算では、今後40年間で維持・更新コストは総額256億円となり、従来型の改築（建替え）中心の維持・更新コストの総額277億円より、総額21億円、約8%経費を削減することができる見込みであることから、長寿命化型の改修へ転換することで一定の効果はあります。

現在、延床面積全体の58%が築30年以上の建物であり、今後10年間でそれらの建物が築40年を超えることになり、これらすべてを長寿命化改修するためには多額の維持管理費用が必要であり、財源を確保することが大きな課題となります。

このような背景を踏まえ、将来的な児童生徒数を適切に推計する中で、学校施設の老朽化状況を勘案し、現有施設を有効活用しつつ、再利用可能なものは再利用することで改修費用のコストダウンを図りながら教育環境の整備を進めていきます。

第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

1 情報基盤の整備と活用

本計画策定の際に取りまとめた老朽化状況調査票に各施設の状態や過去の改修・交換履歴、故障の発生状況を蓄積していくとともに、建築基準法で定められた定期的な安全点検等の結果も反映し、情報の一元化を図ることで適切な整備を行っていきます。

2 推進体制等の整備

学校施設の設置管理者として、教育委員会と連携しながら引続き定期的な点検・調査の実施を行い、不具合箇所の早期把握と修繕対応に努めていきます。

また、建築技師からの指導・助言、連携の強化を図り、市全体の公共施設情報の共有化や効率的・効果的な公共施設等のマネジメントを総合的に進めていきます。

3 フォローアップ

本計画は、「第2次遠野市総合計画」や「遠野市公共施設等総合管理計画」、「第2期遠野市教育振興基本計画」を踏まえたうえで、各施設の点検・評価を実施し、今後の学校施設の長寿命化改修や整備等の方向性を設定するものです。

本計画は、計画期間を10年に設定していますが、5年を目途にフォローアップを実施、必要に応じて計画の更新を行います。

ただし、上記計画や方針等の変更があった場合には適宜計画を見直すこととします。